

令和6年度 学校経営について

持続可能な社会の担い手の 育成に向けて

教育目標
工夫する子ども
協力しあう子ども
○やりぬく子ども

何ができるようになるか

変化の激しい社会でたくましく生きていくための資質や能力

～子供たちが成長するために何が必要か～

- 問題解決する力
 - 多面的・多角的に考える力
 - 体力
 - 協働・レジリエンス
- ・校内研究 「自ら学び、互いに高めあう児童の育成～新聞を活用して～」
 - ・NIEタイムの取組（社会に興味をもち、目を向けることで自分の将来を考える）
 - ・全体的な学力向上を目指して 児童個人に対応（フォローアップ教室等）
 - ・清掃活動を進んでできるように。
 - ・挨拶（登校時の挨拶◎）
 - ・校庭が使用できない状態でも体力向上
⇒近隣道路を活用した持久走記録会を計画中

どのように学ぶか

家庭・地域・社会とともに

- ～各所との信頼関係の上に成り立つ学校教育～
- 現実社会との出会わせ方の工夫（地域教材の活用）
 - 自分たちなりによりよい社会を考える活動
 - ・自学自習（家庭学習の充実）
 - ・コミュニティスクールとしての取り組みの推進（スクールコーディネーターとともに）各種学校支援ボランティアへのご協力をお願いします。
 - ・外部人材及び外部機関の積極的な活用（各種施策や事業の活用・コンクール等への応募を含む）
 - ①文化庁文化芸術による子供育成推進事業 コミュニケーション能力向上事業 5・6年生 5～6月
 - ②「北区×東京ヴェルディ」体力向上プロジェクト 推進校 1・2・3年生 巡回スポーツプログラム 12月
 - ③東洋大学との連携（昨年度は6年・2年）
 - ・安全で、児童が安心して通える学校
暴力行為の排除 不登校児童の対応を継続的に。
いじめ防止・早期発見早期対応（児童の聞き取りを双方から丁寧）

あいさつと笑顔あふれる赤西小

何を学ぶか

それぞれの自己実現をめざして

- ～新しい教育活動の創造～
- ・生活科・総合的な学習の時間を中心としたカリキュラムマネジメントの実施
 - ・学校生活のきまり、学習用具のきまり、生活指導上の共通理解事項で統一した指導。
 - ・特別に支援を要する児童については全教職員で支援する。
 - ・きたコンを活用した学習の推進。情報モラル。
 - ・パソコンの入力とノート筆記をバランスよく、指導。
 - ・異学年交流の充実（なかよし班活動）
 - ・行事への集中した取り組み（運動会・学会等）
 - ・学習規律の徹底「赤西小学習しぐさ」
 - ・言葉遣いの指導 人権を尊重する心情の育成

経営方針

- ①児童一人一人が明るく楽しい学級・学年・学校づくりの推進
- ②児童・保護者・地域から信頼される教職員組織の確立
- ③わかる楽しさ・できる喜び・認められる快さを味わえる授業の実践
- ④規律ある学習活動と家庭の教育力で、基礎基本の力を定着
- ⑤保護者・地域の行事や児童同士の交流から豊かな心を育成